

(2. 特集 行く・読む・感じる)

2-1. 炭鉱跡のフィールドワークとおみやげ

——石炭飴からみる炭鉱地域の生活——

西牟田 真希

1 フィールドワークとおみやげ

フィールドワークをしていると、その土地のおみやげものが気になる。私が調査している炭鉱のある地域社会の場合、代表的なものは「石炭を模したお菓子」である。炭鉱跡へ調査に行くと日本各地で見かける。例えば黒い羊羹、黒いクッキー、黒いソフトクリーム、黒いパウンドケーキ、黒いレトルトカレーなど、多種多様である。特に2015年の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界遺産登録後には、観光地化した後のみやげものの需要からか、さらに種類が増えたようだ。

次から次に新商品が出るので、すべてを網羅したわけではないが、それでも調査に行くたび、いくつか試してみた。味も形もさまざまである。新規参入のおみやげは、さほど味が他の商品と変わらない。竹炭や黒糖などで色を黒くしているものが多く、一般的な店舗で買える商品と比べてインパクトのある色が特徴である。

そして何といても、忘れてはならないものが黒いキャンデー、「石炭飴」である。これは文字通り、石炭を模した飴であり、言ってしまえば黒色をした塊まりの飴なのだが、中には「せき（咳）に!」「たん（痰）に!」効くと書いたものまである（そういうものは確かに、のどには良く効きそうな味がする）。形は丸いドロップ形状のものから、石炭をリアルに模したもの、言い換えれば石を砕いたような塊まりのものまである（写真1）。

では、これほど石炭を模したお菓子があるのは、日本だけに限られているものなのか……。そう思っていたところ、2016年6月に、フランスのサン＝テティエンヌ Saint-Étienne の炭鉱跡を調査した際、「前にもどこかで見たようなもの」が目に入った。それが「石炭飴」であった。



写真1 「塊炭飴」（北海道赤平市）
代表的な「石炭飴」のひとつ。1932年より製造。
（赤平観光協会ホームページより）

2 サン＝テティエンヌの炭鉱跡について

まず、サン＝テティエンヌの炭鉱地帯について簡単に概要を述べる。サン＝テティエンヌ市（総面積 80,0 km²、人口 172,023 人（2013 年現在）INSEE フランス国立統計経済研究所より）は、リヨンから約 60 km 離れたロワール県に位置する。同市は炭鉱のほか工場や企業が立ち並ぶ産業都市として栄えたまちである。AS サンテティエンヌというサッカーチームがあり、ミシェル・プラティニ氏が在籍していたチームでも有名だ。しかし、その繁栄ぶりは石炭から石油にとって代わられると、かつてほどではなくなっていき、衰退していった。



写真 2 「クリオ坑公園・博物館 Puits Couriot Parc-Musée de la mine」(著者撮影)

まちの中心部から少し離れた高台にはボタ山が見える（写真 2）。現在、その跡地はクリオ坑博物館 Puits Couriot Musée de la mine として公園とともに整備されている。このあたり一帯の炭鉱は 14 世紀から開発され、産業革命時からフランスの中心的な採炭地域であった。その中のひとつが炭鉱跡の残るクリオ坑である（1973 年に閉山）。

調査当日は、屋外の講演会、ペタンク大会、砂絵のペイント、コンサートなど、地域の有志によるさまざまなイベントの期間中であった。炭鉱博物館は一部がリニューアルされたばかりだった。しかし、ガイドツアーに参加していたため、博物館の展示は全部、回ることができず、閉館時刻が近づいたので帰ることにした。

3 石炭飴と炭鉱労働者の関わり

帰りにミュージアム・ショップに寄ってみると、冒頭の石炭飴に出くわした。「坑夫飴（坑夫のドロップ Pastille du Mineur）」という名前で売られていた（写真 3）。こちらも丸い形状で黒々しており、これまで見たことのある石炭飴と同じく、石炭を模したものだった。しかも売り場の中心に置かれて、スペースの一角を占めている。パッケージや企業のホームページには、この商品のいきさつが載ってあった。それを見ると、第一次世界大戦



写真 3 「坑夫飴 Pastille du Mineur」(フランス・サン＝テティエンヌ市)
袋入り(左)と缶入り(右)がある。
(Verquin Confiseur ヴェルカン・コンフィズール社ホームページより)

中に、この菓子メーカーの一族がインドに滞在したことのあるイギリスの軍人を住ませたところ、お礼にインド仕込みのレシピを教えてくれたものが由来となっているという。それを創業者の子孫が、1957年に復刻した。この時、咳をしずめるのに有効なシロップや植物由来のインドの伝統的なレシピが、炭鉱労働者と関係してくる。つまり、当時の炭鉱労働者が地下坑内で何時間も作業する際、のどや呼吸器官をいたわるため、あるいは火気厳禁でタバコが吸えないので、代わりに口さみしいときに、またはリフレッシュや気分転換のために食べていたものらしい。そして、売り上げの面でも大成功をおさめたとある。つまり、「坑夫飴」は、単なるおみやげではなく、坑内の炭鉱労働者に親しまれていたことが分かる。

おみやげや名産品に関して、なぜ石炭飴に代表されるような「石炭を模したお菓子」が、あらゆる炭鉱の地域社会で売られているのかを考えたとき、確かに日本でも、これまで「炭鉱のある地域では、甘いお菓子においしいものあり」と、よく言われてきた。日本の時代背景を考えた場合、その多くが和菓子である。「石炭を模したお菓子」かどうかに関わらず、そのほとんどは地元のお菓子屋の発案によるところも大きいのだが、長時間労働の炭鉱労働者からの需要もあったようだ。

現在、新規参入の商品は炭鉱での生活体験とは直接関係がなく、お菓子屋さんがアイデア商品を作るか、自治体が観光協会やメーカーに依頼することになる。かつて、熊本大学の社会調査実習で、三池炭鉱を調査したとき、荒尾市観光協会の監修で、お菓子の詰め合わせ「荒尾かぶれ」に出品した店を一軒一軒まわる調査に同行させてもらったことがあった（熊大報告書2012）。その時は地元の名産品である荒尾梨を使ったお菓子で、いわゆる「石炭を模したお菓子」ではなかった。手作りのお菓子や名産品を、炭鉱跡のおみやげ売り場で販売して、観光地化の一役を担っているという活動である。観光地化や地元の活性化を目的としたものなのだ。そのどれもがおいしく、そして今っぽいもの、つまり現代風の洋菓子や和菓子であった。

対して、サン＝テティエンヌの「坑夫飴」は、炭鉱と炭鉱関連以外の企業に加えて、炭鉱労働者の生活習慣も含めたものであることが分かった。当時、炭鉱労働者が食べたであろう石炭飴を、味覚的に追体験することを通して、当時の生活や文化が語られているのではないか、という思いにいたったのであった。

4 おわりに

サン＝テティエンヌの「坑夫飴」は、袋入り（小・3ユーロ）と缶入り（大・10ユーロ）がある。記念に小さいほうを買ってみた。パッケージに「植物抽出エキス入り」と書いてあるとおり、体には良さそうな味がするが……。味については、私はフランス風の石炭飴と評しておこう。どんな味だったかは忘れられないほどだ。しかも私にとって、サン＝テティエンヌの炭鉱跡でのフィールドワークにもとづいて記憶されるのであろう。そして、一粒でおそろしく腹持ちが良かった。本当に地下で働く炭鉱労働者のための飴であったと感じた。

どのくらい売り上げて、広まっているのかは確かめようもないが、地元ではメジャーな商品

のようである（インターネットのレビューには満点の5つ星がついている）。参考に近郊のリヨン出身であるフランス人にこの飴の存在を聞いてみた。次のような返答があった。「ああ知っているよ、地元では有名だもの。不^ま味^ずい mauvais よね」。

フィールドワークに出れば、ありとあらゆる場所で味わったものは、何かをきっかけに思い出すことができる。炭鉱のある地域社会には、炭鉱跡だけでなく、おみやげものや名産品をつくる企業やそれを食した人々との関わりからも見えてくるものがある。しかし、由緒あるお菓子をおいしいと感じないということは、炭鉱が閉山してしまい、現代には主流ではないものであることを、この石炭飴が象徴しているようにも感じた。石炭飴ひとつとっても奥が深いのである。

【参考文献】

- 赤平観光協会, 2017, 「塊炭飴」, 赤平観光協会ホームページ, (2017年1月13日取得, <http://akabirakankoukyoukai.jp/tokusan/ishikawa.html>).
- INSEE, 2016, “Commune de Saint-Étienne” Paris : Institut National de la Statistique et des Études Économiques (Retrieved January 13, 2017, <https://www.insee.fr/fr/statistiques/1405599?geo=COM-42218>).
- 熊本大学文学部総合人間学科社会人間学コース, 2012, 『三池炭鉱：地域の記憶、世界の遺産－2011年度社会調査実習報告書－』.
- Verquin Confiseur, 2017, “Pastille du Mineur” Tourcoing : Verquin Confiseur (Retrieved January 13, 2017, <http://www.verquin-confiseur.com/pastille-du-mineur.html>).